

# さんしんニュース

2016  
初春号  
通巻257号



## 新年のご挨拶

派遣先からのレポート・公益財団法人静岡県産業振興財団  
・ファルマバレーセンター・静岡県よろず支援拠点

## 海外展開支援について

地域創生への取り組み

「『食&農』こだわりの逸品展示会2015」開催のご報告

## 平成28年 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

平成28年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

また平素の三島信用金庫へのご支援に厚く御礼申し上げます。

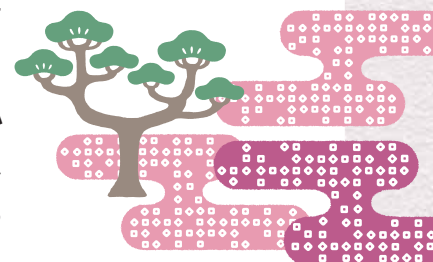
昨年の日本経済は、11月の内閣府月例経済報告にて「個人消費は総じて底堅い動きで推移、企業収益は改善傾向、設備投資も持ち直しの動きが見られた」と評された通り、一連のアベノミクス政策によりもたらされた円安、株高を追い風として、輸出関連企業を中心に収益環境は改善に転じ、緩やかな景況の回復基調が続きました。しかしながら、世界経済をけん引してきた中国経済の減速、利上げ判断に揺れる米国経済の不確実性、欧州が抱える政治、経済両面での不安定性など、海外から伝わる懸念材料の影響もあり、円安から輸出の増加、企業業績拡大からの設備投資増、雇用増から消費増につながる経済の「好循環」が明確となるまでには至らないことから、安倍内閣は「希望を生み出す強い経済」、「夢を紡ぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」を掲げる「アベノミクス新三本の矢」を新たに発表。20年に亘るデフレ環境からの脱却に向け、今後の具体的な施策に注目が集まるところです。

また昨年は「地方創生元年」でもありました。全国の自治体は、地方版総合戦略の策定に取組み、平成28年は総合戦略の具体的な取組みが本格化する年となります。当金庫は「地域創生のお手伝い」を中期経営計画に掲げ、昨年4月に設置した“地域創生サポートチーム”を中心に、各自治体による総合戦略策定会議へ積極的に関与するよう努めました。平成26年9月に創設された「まち・ひと・しごと創生本部」の基本方針に掲げられた「産学官金労言民が共同参画して取組む事が重要」であることを踏まえ、当金庫は今後も自治体等との連携をさらに強化し「地域創生」に取組んでまいります。

ここで地域経済の動向に触れますと、当金庫職員が平成27年11月、営業地域の中小事業所412企業の皆様からうかがったお話を取りまとめた「さんしん景気動向調査」によれば、本年上期と前期の比較において、全体の42%について売上が「増加」と回答する



理事長 稲田精治





富士山・東北海道 広域ビジネスマッチング 開会式

反面、仕入価格についても45%が「上昇」と回答し、また販売(受注)単価が「上昇」と回答した企業は20%に止まったことから、仕入価格上昇分の販売価格転嫁が困難な状況が浮き彫りとなっています。また設備投資については、生産増強設備を必要とする企業が18%と、前回調査時の15%から3ポイント上昇する一方で、3年以内に設備投資を考える企業は42%と、前回調査時の44%より2ポイント悪化しており、企業の期待と不安が入り混じる様子がうかがえます。

このような状況のもと、当金庫は地域経済の活性化に向けた、皆様の「挑戦」をサポートすべく、様々な取組みを行いました。

まず、当金庫創立100周年記念事業として始まり、昨年で5回目を迎えた「夢企業大賞」では、「ものづくり部門」、「サービス革新部門」に加えて新たに「ルーキー部門」を設け、地域経済活性化につながる優れた事業プランを幅広く表彰させていただきました。

また7月には、参加企業経営者と企業OB等の高度な専門知識を持つ人材(新現役)のビジネスマッチングを図る「新現役交流会」を開催いたしました。3回目を迎えた本交流会では、お取引先企業が抱える経営課題の解決に向けたシニア人材の紹介等を行い、課題解決のお手伝いをさせていただきました。

そして11月には、静岡県東部4金庫の共同主催による「富士山・東北海道 広域ビジネスマッチング『食&農』こだわりの逸品展示会2015」を開催いたしました。「地域創生へのチャレンジ」を開催テーマとして臨んだ本年度は、静岡県内の信用金庫と、帯広信用金庫をはじめとする東北海道地域5信用金庫、東京都、山梨県、長野県の5信用金庫との広域連携による173の事業者・団体による出展に加え、会場周辺6市町から「地域創生特設ブース」を出展していただき、「地域ブランド発信」および「販路開拓・拡大」といった新しいビジネスチャンス創出の場を提供させていただきました。

昨年、「明治日本の産業革命遺産」として世界文化遺産に登録された伊豆の国市の「葦山反射炉」を応援する、“葦山反射炉世界遺産登録おめでとうキャンペーン定期預金”を取扱いました。また、各自治体、地域商工団体との連携による、地域ブランド品を懸賞品とした“ブランド定期預金シリーズ”や、伊豆半島ジオパークへの支援を通じた地域活性化を目的とする“伊豆半島応援キャンペーン定期預金”等の商品を通じ、積極的な「地域応援」を実施いたしました。



伊豆半島ジオパーク推進協議会との連携協定

平成28年は、安倍内閣が諸政策の目玉とする“一億総活躍時代”の幕開けともなる年です。当金庫は本年も、女性活躍に向けた「ポジティブアクション」の推進、障がい者の自立支援・働く職場環境づくりのための「特例子会社さんしんハートフル株式会社」の活動を通して、地域社会における「ダイバーシティ」を推進してまいります。

その他様々な取組みを通じ、三島信用金庫は「地域のホームドクター」として、本年も地域の活性化と信頼の拠点づくりに一層取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。結びに、本年の皆さまのご活躍をお祈り申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。

私は、公益財団法人静岡県産業振興財団へ平成26年4月より出向しております。静岡県産業振興財団は、平成24年に公益財団法人化され改名しましたので、以前の名称である「しずおか産業創造機構」や「静岡県中小企業振興公社」という名称の方が馴染みがあるかもしれません。名前は変わっても静岡県庁の出先機関としての位置づけは変わらず、県内中小企業の支援を目的とした機関として運営しております。

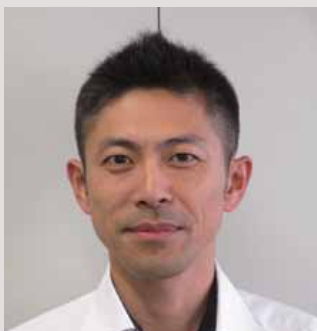
具体的な支援内容として、創業支援・研究開発・販路開拓・専門家派遣・受発注斡旋・経営革新・機能性食品開発支援・医療機器分野参入支援など多岐にわたります。私自身は、経営支援グループ企業支援チームに所属しており、担当業務として専門家派遣・専門家登録・ISO内部監査員養成講座・販路開拓助成金(補助金)・メルマガ配信・ミラサボ専門家派遣などを運営しております。

私の担当業務の中では、専門家派遣事業は企業様のニーズが高く、例年6月から7月にかけて事業予算消化し受付が終了してしまいます。自社で解決できない課題や問題点を経験豊富な専門家の助言を得て解決に導くための制度であり、平成28年度も4月1日より先着順で受付しますので有効にご活用いただけたらと思います。「誰に頼んだらよいかわからない」場合は事前にお問い合わせいただければ、専門家をご紹介することも可能です。

当財団の今後の予定として、「静岡県テクノフェアin東京2016」が平成28年2月18日(木)・19日(金)の二日間にわたり東京都の大田区産業プラザPioにて開催されます。静岡県内企業の工業技術・製品を紹介し、首都圏での取引拡大を図るものです。三島信用金庫とお取引いただいている企業様も多数ご出展されますので、ご興味のある方は是非ご来場いただけたら幸いと存じます。

また当財団では、毎年4月と10月に各種助成金を募集しておりますので、ご検討される場合は事前にご相談いただけたらと存じます。

これらの業務に関連して静岡県庁経済産業部・経済産業省関東経済産業局・中小企業基盤整備機構などの公的機関、県内の中小企業支援機関・団体、専門家派遣事業を通じた各種コンサルティングの専門家との連携・関係性構築を図っております。最後になりますが、財団で得た知識・経験に加えこれらの人脈も活かし、お取引先の皆さま並びに地域の発展に貢献していければと考えております。



公益財団法人 静岡県産業振興財団経営支援グループ 企業支援チーム  
田村 元宏

〒420-0853 静岡市葵区追手町44-1  
静岡県産業経済会館4F

TEL 054-273-4434

URL <http://www.ric-shizuoka.or.jp>

公益財団法人静岡県産業振興財団 ファルマバレーセンター（以下、PVC）が産業支援機関として、地域の皆様にとのよう  
に活用いただけるかを紹介します。

### ファルマバレープロジェクトとPVC

平成8年頃、静岡県の委員会にて静岡県東部地区に静岡県立がんセンターを中心とした医療城下町を構築しようという発想が  
起こり、プロジェクトが始動しました。その計画がファルマバレープロジェクトで、医療城下町=医療健康産業集積（クラスター）を  
目的に、このプロジェクトの推進を担っているのがPVCです。

### PVCはどのような相談に乗ってくれるのか

医療と聞くと病院、医師を思い浮かべる方が大半かと思いますが、医療の現場で使用されている“機器”に着目いただきたいと  
思います。現在の医療機器は約90%が輸入品と言われています。この輸入超過の現状を踏まえて、日本のものづくりの技術を  
転用し、日本人に合う国産の医療機器を作ろうという動きがあり、この点においてPVCが医療機器参入企業を支援してい  
ます。また他方では、薬を作る（創薬）について、また未病対策などを中心とした健康食品に係る支援も各機関と連携して実施してい  
ます。

### 支援の具体的な内容

- ・無料薬事相談（業界参入において必要な許可、認証についてなど）
- ・コーディネーターによる相談対応（機器製造に関する留意点、設備、知財など）
- ・各種セミナー（医療機器業界参入セミナー、ステップアップセミナー、薬機法セミナーなど）

医療機器産業に参入をお考えの企業、また、参入済みだが更にステップアップを図りたい方、市場販売を開始したいが法規  
制は問題ないかなど、企業のそれぞれの現状・状況に沿ったご相談への対応ができます。

### PVCの新拠点

旧県立長泉高校の跡地を活用した、新拠点（正式名  
称：医療健康産業研究開発センター）が2016年3月に一  
部開所（9月フルオープン）します。

ここでは、入居が既に決まっているテルモ㈱様、東海部品  
工業㈱様、現在選考中のラゴに入居される企業を中心と  
して医療機器、医薬品の研究開発および製造が行われます。  
ここに指定管理者としてPVCも入居し、入居される企業との  
情報交換や共有を図り、ノウハウを蓄積して、地域企業からの相談に効果的な対応ができるようにしていきます。



PVCは医療健康産業に係る相談を開発から販売まで一貫して支援できる体制を構築しています。  
まずはお気軽にご相談ください。



ファルマバレーセンター 企画部 事業推進課

片山 博仁

〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007

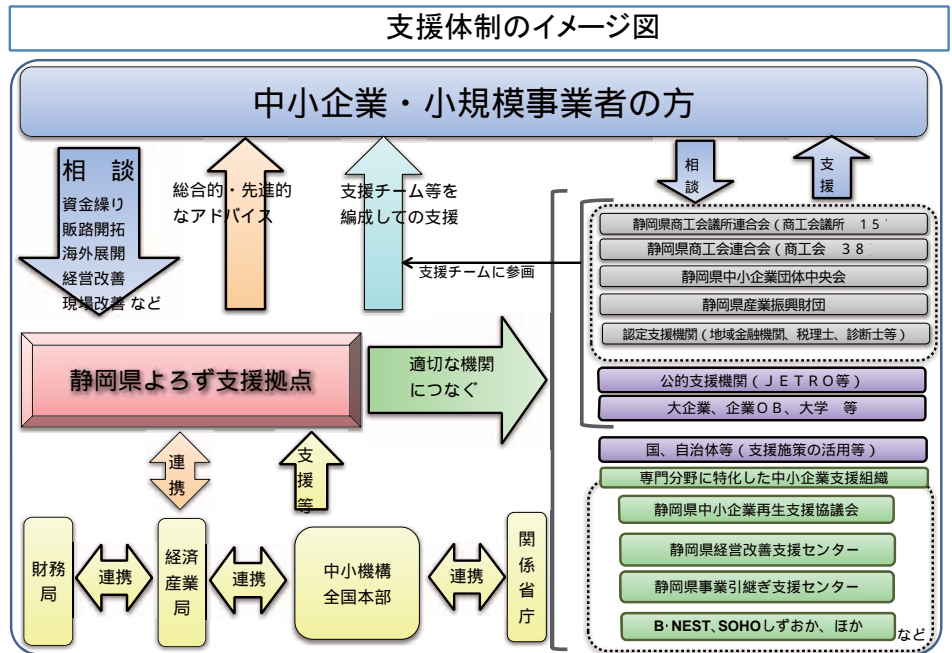
TEL 055-980-6333

E-Mail h.katayama@fuji-pvc.jp

「よろず支援拠点」は、国が全国に設置した経営相談所で、各県に1ヶ所ずつ設置されており、静岡県では静岡商工会議所に平成26年6月に設置し、県全域を対象に活動しております。

中小企業・小規模事業者の皆様の売上増加、経営改善など経営上のあらゆる悩みの解消に対応しています。

相談内容としては、売上増加、販路紹介、販売促進等に関連した相談が全体の3割と一番多く、次に経営改善、資金繰り、創業、広報戦略などがあります。支援の枠組みとしては、下記の3つのパターンがあります。



### 総合的・先進的アドバイス

中小企業・小規模事業者から幅広い経営課題を聴取・分析し一定の解決策を提示し、フォローアップも実施します。

### 支援チーム編成支援

中小企業・小規模事業者の個別の課題に応じた適切な支援チームを編成し、支援機関、公的機関、企業OB等の「支援専門家」や大学等と連携し支援を行います。

### ワンストップサービス

支援機関等との接点が無く、相談先に悩む中小企業・小規模事業者のための相談窓口として、広く経営相談に応じます。相談内容に応じて、適切な支援機関・専門家につなぎます。

よろず支援拠点は、県東部・伊豆地域における個別相談会も開催しています。

- 会場 さんしんサポートセンター夢(三島信用金庫 三島南支店 2階)
- 日時 毎月第1・3水曜日 9時~17時



静岡商工会議所内 静岡県よろず支援拠点  
サブコーディネーター  
**齊藤 直也**

〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-8  
静岡商工会議所内

TEL 054-253-5117

相談フォーム <http://www.shizuoka-cci.or.jp/yorozu/>

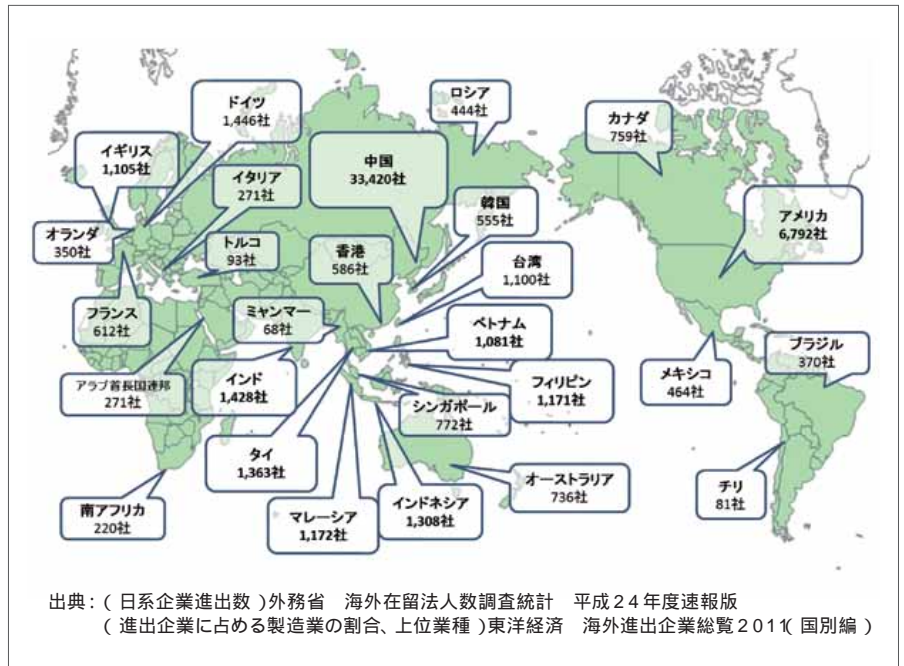
# 海外展開支援について

## 日系企業の海外展開先

国内では人口が減少に転じ、今後もさらに減少することが予想される中で、海外市場を販路開拓先として捉える海外展開は、重要な経営戦略のひとつとなっています。

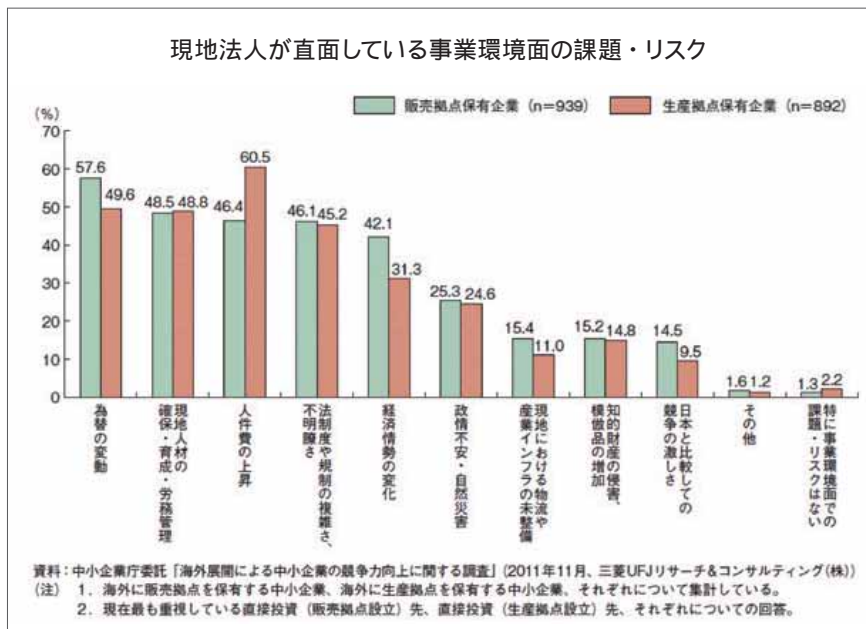
2年半前の2013年6月に政府が閣議決定した「日本再興戦略」においても、「2018年までに（現在の1万社から）2万社の海外展開を実現する」としています。

環太平洋経済連携協定（TPP）により、21世紀のアジア・太平洋に自由で公正な「1つの経済圏」が構築されることで、海外との商取引は、確実に拡大と増加が見込まれます。



## 海外展開での課題

海外展開は、為替の変動リスク、進出先国の人材雇用（言葉の壁）、法制度や規制への対応、経済情勢やインフラ、文化、商習慣等、多くの課題があり、自社スタッフのみで対応することには限界があります。



## 当庫の支援体制

当庫では、信金中央金庫、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）、静岡県国際経済振興会（SIBA）、独立行政法人中小企業基盤整備機構、株式会社日本政策金融公庫ならびに株式会社国際協力銀行（JBIC）等と連携し海外展開の支援を行なう体制を整えています。支援は、海外子会社への直接融資、スタンドバイクレジット（債務

保証による現地金融機関からの貸出）等の「金融支援」、「事業計画策定支援・財務管理」、「法務労務・リスクマネジメント」ならびに「販路開拓支援」になります。

海外展開についてのご相談は、当庫の営業店窓口または法人サポート課の海外担当（横山・高野）までお気軽にお問い合わせください。

## 地域創生への取り組み

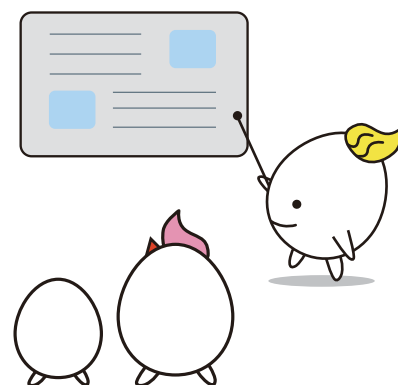
現在、自治体では地方創生に向け人口減少に歯止めをかけようと様々な施策を実施しています。人口減少を分析すると、静岡県東部だけではなく18歳以上の転出超過が大きな要因となっています。首都圏に大学・専門学校が集中しているため、やむを得ないのですが、卒業後地元に戻ってきてもらうこと、戻りたいと思う環境をつくることが重要であると考えます。そこで三島信用金庫では、地元の大学・高校と連携し、地域の企業を知っていただく機会を創出しています。

### 伊豆総合高校企業視察研修について



平成27年10月16日に当金庫のお取引先である、株式会社エーユー様(裾野市平松405番地 青木賢吾代表取締役社長)に伊豆総合高校の工業科1年生40名が視察訪問いたしました。株式会社エーユー様は昭和24年創業以来、優れた先端技術を有し、高精度の精密金属部品を製造。益々多様化する、顧客・市場が求めている多品種・少ロット・短納期・低コストの要求に迅速に対応するため、情報管理を含めた総合的な製造技術を革新し続けています。

そのために「チームワーク」を大切に、分担作業ではなく、チーム作業を行い、1+1=2ではなく、それ以上の成果を上げるために、生産管理手法などの具体的な説明をいただき、現場も見学させていただきました。視察をした高校生は、大変参考になったようで目を輝かせていたのが印象的でした。



### 沼津工業高等専門学校「産学金技術交流会」設立について

沼津工業高等専門学校(以下、沼津高専)と三島信用金庫は、沼津高専の持つ人材技術を地域産業界が抱える課題の解決に活用することや、産業界が沼津高専で学ぶ学生に実践教育の場を提供することを目的に平成28年2月に交流会を立ち上げる予定です。

沼津高専とは、平成26年12月に産学連携に関する業務協力覚書を締結し、今期には「長期インターシップ制度」、「困りごと(技術課題)相談会」を連携して行ってきました。交流会を設置し、更なる連携強化及び取引先の技術相談・共同研究をより一層支援していきます。

静岡県東部・伊豆地域には優れた企業が多く存在しています。当金庫では、そのような技術力をもつ地域の企業をもっと知っていただく機会を今後とも創出していきたいと考えております。

## 「富士山・東北海道 広域ビジネスマッチング『食&農』こだわりの逸品展示会2015」開催のご報告

平成27年11月19日、沼津駅北口のプラサ ヴェルデ キラメッセぬまづで、「『食&農』こだわりの逸品展示会2015」を開催しました。来場者数約7,000人、展示商談実績803件、個別商談実績163件と多くのバイヤー・一般消費者にご来場いただきました。今回は地域創生特設ブースを構え、地方公共団体と連携して、地域創生への取り組みを加速する機会となったこと、出展者からは資源・商品のPR、人脈づくりも含めたビジネスチャンスの拡大と、物販による直接的な成果の獲得に繋がったという声を多数いただきました。引き続き商談成約に向けた支援をしていきます。



名 称	地域創生へのチャレンジ 「富士山・東北海道 広域ビジネスマッチング『食&農』こだわりの逸品展示会2015」
日 時	平成27年11月19日(木)10:00 ~ 17:00
会 場	プラサ ヴェルデ キラメッセぬまづ(沼津市大手町1-1-4)
来場者人数	約7,000人(バイヤー:1,200人 一般来場者:5,800人)
出展団体数	173社・団体
商 談 数	(合計)966件

### 高校生によるビジネスマッチング見学会 開催

11月19日(木)三島信用金庫では、沼津中央高等学校生徒の皆さんによる「富士山・東北海道 広域ビジネスマッチング『食&農』こだわりの逸品展示会2015見学会」を開催いたしました。

見学会の第1部では、当金庫法人サポート課職員が「静岡県東部・伊豆地域のまち・ひと・しごと」をテーマとして、将来的な人口予想を交えた「地域創生の背景」と、「静岡県東部・伊豆地域の魅力」を活かした地域創生について説明し、第2部では「ビジネスマッチング展示会」会場を見学いたしました。当日は400名以上の生徒の皆さんが参加し、地域や県外の「こだわり食材を使った商品」の試食や購入をしたり、出展者の説明に耳を傾けながらブースを見学いたしました。



見学会後のアンケートでは「地域の魅力を再発見できた」、「地域の活性化に取組む現場を体感できた」、「自分自身も地域を盛り上げていきたい」など、さまざまな感想をいただきました。今回の見学会を通じて、地元高校生の皆さんに地域の魅力を知ってもらうことができたと思います。当金庫では、これからも地元の高校生及び、学生の皆さんとの交流を通じて地域創生活動に取組んでまいります。